超音波センタープログラム　（消化器・肝胆膵）

【研修目標、到達目標】

幅広くの超音波に関する知識を身につけ、それらを基礎に腹部疾患（急性腹症・腫瘍性疾患・消化管疾患・びまん性肝疾患・腎泌尿器婦人科疾患の鑑別など）を診断する能力を養う。内科もしくは外科学会の専門医を基礎とし、日本超音波医学会専門医の取得を目標とする。他の画像を診断する能力は勿論であるが超音波の特性を活かしたスクリーニングや確定診断できる人材をより多く育成する。

【レジデントA(卒後３年目)カリキュラム】

超音波専門医（消化器）となるためには内科医あるいは外科医であることが望ましい。希望があれば消化器系の内科および外科での研修と同時に兼務することは可能である。レジデントA終了後には内科・外科認定医試験を受験し認定医資格を取得しさらに専門領域の専門医を目指す事を目標とする。

超音波センターでの研修期間は少なくとも週 3 回以上スクリーニング検査を含めた研修を行い、消化器救急疾患を含めた消化器疾患を中心に診断能力を養う。簡単な超音波下の処置を習得し、学会等では症例発表を必ず行い、論文としてまとめることにより考察力を身につける。

超音波検査の知識・技術習得のみを希望するものについては、一定の条件下でそれぞれ対応する。

【レジデントA（卒後３年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、希望により、救命救急センターで３ヶ月間研修を行うことができる。

【レジデントB・C(卒後４・５年目）カリキュラム】

レジデントAと同様の研修に加え、希望があれば内科外来診療も担当して消化器一般疾患の診断・検査・管理及び治療を幅広くかつ深く習得する。超音波検査に関しては、自ら機器の最適な設定を行い、造影超音波などの特殊検査の理論の習得も目指す。消化器のみならず腹部救急疾患も独自で診断できる技術を習得する。

学会活動は国内・国際学会に積極的に参加する。研修医、レジデント A の超音波スクリーニングの指導を行う。原則として内科外科認定医資格取得後、日本超音波医学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会などの専門医資格の取得を目指す。

【後期研修での行事(カンファレンス、症例検討会)】

毎週水曜日に一週間の症例を振り返り、血液生化学検査、造影CT、MRI、手術所見などと対比をしながら全員で検討する。隔週水曜日に病理部とのカンファレンスを行い超音波診断と組織の関連等についても学ぶ。持ち回りで、消化器・肝胆膵疾患、超音波医学に関してのトピックスや最新情報などについての抄読も行う。

【その他研修要件・関連病院】

希望者には国内外の消化器関連の超音波診断に関する研修機関の紹介をする

【指導医】

教授：飯島　尋子　　講師：西村　貴士

【研修統括者】

教授：飯島　尋子

【問い合わせ先】

超音波センター：西村　貴士

TEL：0798-45-6111(内線 6316)　　E-mail:tk-nishimura@hyo-med.ac.jp